



# HOKKAIDO UNIVERSITY HOSPITAL 地域医療連携福祉センター NEWS LETTER

No. 0 6

## 新医療機能連携協定のご案内

地域医療連携福祉センター

センター長 福田 諭

北海道大学は平成16年4月から国立大学法人となり、自立的な運営と経営の効率化が求められております。当院においても大学病院の持つ使命と役割の一つである地域医療への貢献と支援が重要と考えており、今後も地域医療機関との連携を積極的に推進してまいりたいと考えております。

このため、従来の「医療機能連携協定書」を見直し、より地域医療機関との連携を強化する内容に改訂した「新医療機能連携協定書」を作成しましたのでご案内いたします。協定書の内容としては、本院のホームページ、発行する各種案内冊子、さらに、院内に「医療機能連携病院名」を掲示することで、本院との連携をわかりやすく表示します。

また、従前のA4版の「医療機能連携登録証」を倍の大きさのA3版とし、デザインも変更して北海道大学の前身である札幌農学校の第一期卒業生に授与した学位証状と同じ飾り枠を使用しました。

なお、旧協定書の「連携登録医制度」は、本院に別途「北海道大学病院客員臨床医師制度」が制定されているため、廃止させていただきます。

現在、「医療機能連携協定の締結について(ご案内)」の発送準備を進めているところですが、準備が整い次第、各医療機関に発送させていただきます。

強固な連携関係の強化に向けて本院も鋭意努力してまいりますので、皆様のご理解とご協力をいただければ幸いです。

北海道大学病院は、大正10年(1921年)10月に開設され、現在では、8診療科(医科専門診療科28, 歯科診療系専門外来11), 20中央診療施設, 936病床数となっております。



タイトルの写真は北大構内のイチョウ並木です。



# 第一内科診療のご案内

准教授 別役 智子

第一内科は呼吸器、循環器・代謝疾患専門医、あるいはそれを目指す若い医師が多数おり、幅広い診療と研究を行なっております。その診療における理念は、「全身を診る」という考え方と担当医師による責任ある体制ということにあります。以下、当科の4つのグループの診療をご紹介します。

## 肺癌グループ

肺末梢小型病変の診断に対し常に世界をリードする診断法に取り組んできました。バーチャル気管支鏡によるナビゲーションを併用し、CT透視下あるいは末梢エコーガイド下に経気管支生検を行っており、高い診断率が得られています。また、中枢気道閉塞症例に対しては、硬性鏡下に気道拡張術とステントの挿入を積極的に行っており、患者さんの症状緩和と延命に寄与しています。当施設は日本呼吸器内視鏡学会認定施設であり、多くのグループ員が日本気管支学会気管支鏡専門医および指導医を取得しています。また肺癌の化学療法や化学放射線療法においては、最新の知見を元にした標準的治療はもちろんのこと、多くの多施設共同研究にも参加して高い診療レベルを保っています。

## 呼吸病態生理グループ

慢性閉塞性肺疾患(COPD)、間質性肺炎、急性・慢性呼吸不全などの疾患を網羅しています。肺感染症に関する診断と治療、呼吸管理、とりわけ非侵襲的呼吸管理も重要な任務のひとつです。気管支肺胞洗浄(BAL)検査は免疫・アレルギーグループと共同で行っております。BALは慢性肺疾患や呼吸器感染症の診断、治療方針の決定、さらには慢性のアレルギー性肺疾患の経過観察にも重要な役割を果たしています。

## 免疫・アレルギーグループ

我々のグループは病棟、外来では主にBAL検査と気道過敏性検査(アストグラフ)を担当しています。アストグラフは気管支喘息や慢性咳嗽の診断や経過観察において重要な検査であります。吸入ステロイドをはじめとする治療法の進歩にともない気管支喘息の患者さんが入院を要することはほとんどなくなりましたが、外来にて喘息や免疫アレルギー疾患の専門外来を担当しています。

## 循環・代謝グループ

- 糖尿病:日本糖尿病学会研修指導医のもと(当科は糖尿病教育認定施設に認定)教育入院、各種資料の作成、クリティカルパスの導入、新規薬剤の早期導入などを行っています。またミトコンドリア糖尿病や劇症1型糖尿病といった特殊な病型にも対応しています。
- 肺高血圧:原発性肺高血圧症はまれな疾患ですが、早期診断と適切な治療は極めて重要です。近年この領域の治療法に大きな進歩があり、新しい薬剤も積極的に導入し北海道の肺高血圧診療をリードしています。
- 心サルコイドーシス:北海道はサルコイドーシス症例の多い地域です。私たちは心サルコイドーシスに注目し、より早期の診断と適切な治療によって突然死などをより確実に防ぐことを目指しています。
- 動脈硬化性疾患:現在日本で最も患者数の多い疾患の一つは高血圧であり、私たちは高血圧、狭心症、心筋梗塞といった一連の病気に対して、循環器内科・外科、および市内の関連病院との連携をもった医療を提供します。



▲第一内科の医師

# 運動器疾患治療への先進医療の導入

講師 外来医長 岩崎 倫政

整形外科では、運動器疾患全般に対して先端技術を導入し、患者さんの“Quality of Life (QOL)”の獲得と早期社会復帰を目指した医療を提供します。そのために、関節鏡やコンピューターナビゲーションシステムを用いた最小侵襲手術、マイクロサージャリーの応用による組織移植および機能再建術、人工関節置換術、さらには組織工学的手法による再生医療などを中心とした治療を積極的に行っています。

高齢化社会の到来と、交通外傷や労働災害の複雑化、スポーツ人口の増加などに伴い、運動器疾患は増加の一途をたどり、かつ複雑多様化しています。これに対して、当科では高い専門性を持つ医師により形成されるチーム診療体制をとっています。

## ● 上肢診療グループ

上肢診療グループは、肩関節、肘関節、手関節、および手指の領域の疾患を扱っています。さらに、マイクロサージャリーを応用した複合組織移植術、機能再建術も行っています。

上肢の関節疾患に対しては、独自の関節鏡視下手術手技を用いた最小侵襲手術を積極的に行っており、特に早期競技復帰を目指すアスリートの治療に効果を発揮しています。野球選手の肘軟骨損傷に対しては、骨軟骨移植術や軟骨細胞移植術など最先端の治療を導入し、効果を挙げています。また、治療が非常に困難である関節リウマチに伴う上肢関節障害に対しては、人工関節置換術を積極的に行い、優れた成績を獲得しています。

現在、独自に開発した人工手関節の臨床治験を準備中です。

## ● 下肢診療グループ

幼児や小児の内反足や股関節脱臼、膝や股関節の変形性関節症、リウマチによる股関節、膝、足関節の痛み、足趾の変形などの診療を行っています。特に人工関節置換術に関しては手術成績の向上を目指しコンピューターナビゲーション手術、また患者さんの侵襲を少なくする最小侵襲人工膝関節置換手術を行っています。独自に開発した人工足関節は平成20年9月に厚労省の認可を取得しました。

スポーツ外傷に対する関節鏡手術も数多く行い、スポーツ復帰の加速化を行っています。外傷後の変形治療、偽関節、感染(慢性骨髓炎)などに対する変形矯正や骨延長・骨移動術による治療も行なっています。

特殊外来としては毎週火曜日に血友病外来、毎週金曜日に内反足外来を行なっています。

## ● 脊椎・脊髄診療グループ

脊椎・脊髄診療班は、種々の脊椎・脊髄の疾患に関する研究・診療をしています。先進的な脊椎手術治療に関して国際的に評価が高く、国内外から多くの脊椎外科医が勉強に来ています。

腰椎すべり症、腰部脊柱管狭窄症、腰椎椎間板ヘルニア、頸椎症性脊髄症、頸椎神経根症、頸椎椎間板ヘルニア、脊柱靭帯骨化症(後縦靭帯骨化症、黄色靭帯骨化症)、特発性脊柱側弯症、先天性脊柱変形、脊椎感染症などに対する一般的な治療法はもちろんのこと、先進的な診療内容が国内外で脚光を浴びています。

内視鏡などを駆使した最小侵襲手術から、ナビゲーションシステムを使用した高度な破壊や変形を伴う疾患に対する脊柱再建手術まで、あらゆる脊椎・脊髄の疾患に対応できる国内でも数少ない医療施設の一つです。



▲肘関節鏡視下手術

# 北大病院眼科で受けられる炎症性眼疾患に対する最新治療

助教 外来医長 北市 伸義

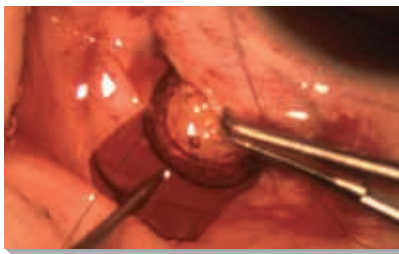
北海道大学病院眼科では大野重昭名誉教授(医学研究科特任教授)と田川義継診療教授を中心に、ぶどう膜炎、角膜、神経眼科、網膜硝子体、小児・斜視、アレルギー、緑内障、白内障の8つの診療グループで外来診療を行なっています。今回は炎症性眼疾患に対する当科の世界最新治療をご紹介します。

## ベーチェット病に対する抗 TNF- $\alpha$ 治療

ベーチェット病は目のぶどう膜炎、口腔内アフタ性潰瘍、結節性紅斑などの皮膚症状、外陰部潰瘍を主症状とする失明率の高い難病です。歴史的にも北大眼科は本疾患の研究、治療で世界的に有名ですが、2007年、世界で初めてベーチェット病のぶどう膜炎に対する抗TNF- $\alpha$ 抗体治療が日本で保険適用となりました。保険適用は臨床試験の全国総責任者である大野教授の信念と多くの患者さんの10数年間にわたる必死の思いが結実したものです。これまでの常識では考えられないほどの高い治療効果が得られておりますが、キメラ型抗体の全身点滴投与ですので投与時反応のコントロールや除外基準などがあり、まずは北大病院眼科を受診していただければ幸いです。世界的にみてもベーチェット病のぶどう膜炎は発症5年以内に20%以上の方が失明しており、早急な治療開始が必要です。本治療法が保険で認められている国は世界で日本のみであり、また日本が世界初であります。

## 難治性ぶどう膜炎に対する徐放性ステロイド薬インプラント埋植手術

炎症が特に眼内に局限している場合には全身治療ではなく、眼局所治療が好ましいことは言うまでもありません。北大眼科では2年半から3年間、眼内でステロイド薬を放出し続ける徐放性ステロイド薬インプラント手術治療が可能です(写真)。大野教授はこの全国治験の医学専門家を務めております。既存治療抵抗性のぶどう膜炎、それによる嚢胞様黄斑浮腫などで高い治療効果が得られております。現在治験中ですが手術を執刀できる認定医師が二人(南場、北市)おります。北大眼科は北海道・東北地区では唯一の手術可能施設で、東京大学、大阪大学、九州大学等と共に多くの経験を蓄積しております。手術の適否については一度外来を受診してください。



▲徐放薬剤インプラントの眼内埋植手術  
既存治療に抵抗する眼内炎症性疾患に対し、長期徐放薬剤インプラントの眼内埋植手術を行なっている。執刀には専門の認定資格が必要。北大病院は北海道・東北で唯一、同手術が可能な医師を有する。

## 春季カタルに対する外科的治療

春季カタルは青少年期に多い、重症のアレルギー性結膜疾患で、しばしば角膜障害を引き起こし、ときに失明につながります。特に日本ではアトピー性皮膚炎との合併が多く、一般にはステロイド薬を内服することが多いのですが、体の成長期でもあり治療には医師、本人、ご家族(両親)とも苦慮されていると思います。当科ではステロイド薬の全身投与を極力避けるため、結膜巨大乳頭の切除手術を行なっております。手術後角膜病変は劇的に改善致しますが、再発することもあります。

## 春季カタルに対する免疫抑制薬点眼治療(シクロスポリン,FK506)

最近数年間で急速に進歩しております。免疫抑制薬シクロスポリンの点眼薬は、大野教授を中心に臨床試験段階から一貫して研究して参りました。これまでのステロイド薬点眼や膜安定化点眼薬、抗ヒスタミン点眼薬より遥かに有効で、ステロイド薬による白内障や緑内障等の副作用から解放されます。厚生労働省の全例調査等もあり、実際には道内では北大眼科以外ではほとんど処方されていない状況です。

また、本年からFK506(タクロリムス)という新たな免疫抑制点眼薬も厚生労働省から認可され、処方できるようになりました。まだ治療は始まったばかりですがシクロスポリンを凌駕する効果が得られており、大きな期待が寄せられております。これも現在北海道では北大病院のみで処方可能ですので、不可逆性変化に至る前に是非一度受診してください。

今回ご紹介したのはいずれも現在北大病院眼科で受けられる最新治療ですが、今後も多くの最先端治療の実施を控えております。今回は紙面の都合で炎症性眼疾患のみ取り上げましたが、他の領域でも多くの先端治療を行なっております。いずれの患者さんでもまず一度一般外来を受診していただき、その後各専門外来へ振り分けております。

以上、簡単ですが当院でどのような疾患にどのような治療を行なうことができるのか、ご紹介させていただきました。今後ご紹介くださる一助となれば幸いです。

# 女性の健康増進・QOLの上昇を目標とした医療

助教 外来医長 武田 真人

産科の一部であった内分泌・不妊症・内膜症外来は生殖医療センターの地階への移動に伴い、来年度より婦人科に含まれることとなりました。子宮鏡下手術、体外受精、顕微受精、卵管鏡下卵管形成術、体外胚移植、凍結胚移植など高度な技術を駆使し、年間120近い妊娠に成功しています。

## 当科の特色

低頻度で管理の難しい腔・外陰がんや性器奇形など特殊な疾患や難治性不妊の取り扱いはもちろん、一般婦人科診療や子宮がん・卵巣がんなど婦人科悪性腫瘍(婦人科がん)の管理における一貫したQOL重視と、時代に即した幅広い女性の健康管理にあります。

## 婦人科がん管理におけるQOLと独自の手術法

婦人科がん患者さんの治療後は、腫瘍外来におけるフォローアップだけではなく、手術後にしばしば起こる排尿障害やリンパ浮腫の管理を行い治療後のQOLに配慮しています。最近では豊富なエビデンスに基づく治療の個別化により、低侵襲かつ機能温存の手術を心がけています。子宮頸がんでは内視鏡手術を行う他、独自の神経温存手術により広汎子宮全摘後の排尿障害を軽減し、国内外から注目されています。卵巣嚢腫や子宮筋腫など良性腫瘍もほとんどが腹腔鏡手術となりました。不妊症グループは子宮内膜症や子宮筋腫の治療も手がけ、腹腔鏡下手術を年間200近く行っています。チョコレート嚢胞のアルコール固定、内膜症病巣除去や仙骨子宮靭帯切断術の他、筋腫核出では、モルセレーターで筋腫を砕いて取り出す方法や独自の腔式の操作により、従来腹腔鏡手術では困難な大きな筋腫の摘出を可能にしました。また、他施設ではほとんど行われない子宮腺筋症の核出術を試み、妊娠成功率を高めています。

## 近年の婦人科疾患と北大婦人科

近年、子宮体がんや乳がんは増加し、子宮頸がんは若年者において顕著に増加しています。また、高齢者のQOLが重視され、骨粗鬆症の新薬が開発されました。当科では十数年前に乳房やコルポスコピー、骨粗鬆症の専門外来を設置しました。著しい乳がんの増加に対してマンモグラフィの読影を婦人科医にも推奨されるようになったのはここ数年ですが、当科では年間のべ1000以上のマンモグラフィの読影により乳がんの早期発見に努めています。リ

ンパ浮腫外来は混合診療などの問題で現在休診となっていますが、関心の高まりや弾性着衣や指導料が保険適応となるなどの行政の動きもあり、近い将来に再開できるものと思います。

## 最近の話題と今後の外来診療

欧米で確立されたUrogynecology(泌尿婦人科)が高齢化の進む本邦でも注目され始めています。当科では一昨年より排尿障害外来を週二日に増やし、本格的に尿失禁、排尿障害、性器脱などの診療を開始しました。また、最近注目されている月経前緊張症候群など若年女性の自律神経・精神症状に対しても、更年期心身症外来で研究および診療に取り組んでいます。女性の不妊、妊娠、加齢や骨・脂質代謝の変化、さらには悪性腫瘍の発生は密接に関連しており、これらの要素を総合的に管理する目的で今年から健康増進外来を設置し、健康指導にあたっています。今後も悪性腫瘍の早期発見や治療成績の向上と女性の健康増進に一層の努力をいたします。



# 小児科外来のご紹介

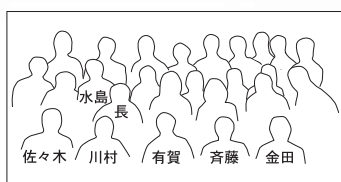
助教 外来医長 山田 雅文

小児科外来は一診で行われる新来／再来と他の診察室で行われている専門外来からなっております。専門外来は10の専門グループによってほぼ小児科領域全般にわたる専門的な医療を行っています。

患者さんをご紹介いただく場合にある程度疾患のめどがついている場合には各専門外来を、まだ診断が不明確な場合には新来を受診していただくことになります。詳細はお問い合わせください。

また道内の多くの医療機関に小児科医を派遣していることから、各地の病院と連携した患者さんのフォローアップが可能です。遠隔地であっても遠慮なくご紹介ください。

	月	火	水	木	金
一 診	新来／再診	新来／再診	新来／再診	新来／再診	新来／再診
二 診	代 謝	感染／神経	内分泌	血 液	腎 臓
三 診	循環器	内分泌	循環器	循環器	血 液
四 診	血 液	内分泌	新生児	腎 臓	新生児
五 診	神 経	遺伝／心理検査	神 経	免 疫	内分泌



▲前列左より：講師(医局長) 佐々木 聡, 准教授 川村 信明, 教授 有賀 正, 講師 齊藤 伸治, 助教 金田 眞  
2列左より3人目：周産母子センター 助教 水島 正人,  
4人目：周産母子センター 准教授 長 和俊

# 歯科診療センターのご紹介

口腔系歯科 口腔内科診療 講師 佐藤 明

北海道大学では平成15年10月に病院統合が行われ歯学部附属病院は北海道大学病院歯科診療センターとなりました。平成18年5月に歯科病棟が医科病棟へ移転したため、現在歯科診療センターでは外来診療のみを行っています。歯科診療センターは保存系歯科、咬合系歯科、口腔系歯科の3診療科の他にグループ系専門外来および高次口腔医療センターから構成されています。

## 診療科

3診療科で歯科の2大疾患であるむし歯、歯周病の治療から口腔内科、口腔外科、予防、矯正、小児歯科領域まで幅広く対応しています。また、口腔ケアチームを立ち上げ、造血幹細胞移植、臓器移植、化学放射線療法や手術に際して治療前の感染源の精査を含めた周術期の口腔ケアを入院患者さんに対して往診で行っています。観血的治療は外来手術センターに一本化され、また歯科治療恐怖症や有病者の歯科治療に対しては歯科麻酔科医による静脈内麻酔や鎮静法により、より安全・快適な医療を提供しています。

## グループ系専門外来

- ▶ 歯ぎしり専門外来: 睡眠時または日中に歯を強くこすり合わせたりくいしばったりする非機能的な習癖「ブラキシズム」の診断・治療を行っています。
- ▶ 口臭専門外来: 口臭の程度を機器で測定し、その原因を除去するまたは臭いを減らす処置によりさわやかな息を取り戻すお手伝いをしています。
- ▶ 口腔インプラント専門外来: インプラント治療は保存治療、補綴治療、外科治療等が含まれるため、各科専門医によるグループ治療によりインプラントの埋入手術から冠の装着まで一貫した治療を行っています。
- ▶ 摂食、嚥下専門外来: うまく飲み込めない、食事中よくむせる、口から食物がこぼれる、口の中に食物が残るなどの機能障害のある方の診断・治療やうまく飲み込めないために頻繁に肺炎を起こす方への口腔ケアの指導などを行っています。
- ▶ 審美歯科専門外来: 変色歯や着色歯の自然な色調への回復処置、審美修復材料を用いた歯冠補綴処置、歯肉の変色・形態修正などを様々な治療法を駆使し、機能も含めて本来あるべき口腔の姿に回復することで、生活の質の向上に貢献できるよう診療しています。

## 高次口腔医療センター

- ▶ 顎関節治療部門外来: 顎関節症とそれに関連する機能障害や噛み合わせの異常を治療する専門外来で、開口障害および開口時に顎関節に音や痛みがある方の診療を行っています。
- ▶ 顎口腔機能治療部門外来: 口唇口蓋裂をはじめとした口腔顔面の先天異常の治療、言語障害の治療、顎変形症の治療を行っています。
- ▶ 障害者歯科治療部門外来: 知的障害や運動機能の障害があつて通常の歯科治療を受けることが難しい患者さんを対象に、歯科治療やむし歯の予防処置を行っています。
- ▶ 高齢者歯科治療部門外来: 高齢者の口腔の健康を保つことを目的に口腔ケア、治療やリハビリテーションを行っています。特に病気で十分な歯科治療が受けられない、あるいは歯科治療に全身麻酔や入院を必要とする患者さんや手術やケガによって顎が変形したり、やせて入れ歯が合わない患者さんなどを対象に診療を行っています。

歯科診療センターへの御相談、御紹介は地域連携福祉センターまで御連絡ください。



▲外来手術センターにおける手術



# I N F O R M A T I O N

## 患者サービスの向上にむけて

本院では平成20年2月に医療情報システムを更新しました。それに伴い、再来受付機の配置の変更と総合案内受付の一元化を行い、患者さんに使いやすいレイアウトとしました。さらに病院ボランティアの方々の協力により、現状で最良と思われる患者さんの動線を確保したところです。また、診療費の支払時には自動精算機(現金のほかクレジットカードも使用できます。)をご利用いただいているほか、本年7月から現在使用されている診療券を、次回の予約情報を確認できるリライト式の診療券といたしました。

現在の外来診療棟は平成元年3月に診療を開始してから20年を経過し、その間に診療科及び診療部門の新設・充実が図られ患者数も飛躍的に増加している状況です。特に週の初めは患者さんが多く外来ホールが混雑し、患者サービスが行き届かない点もあり、全ての患者さんへ満足していただけるには難しい状況です。

これからも患者さんの声をお聞きしながら限られたスペースのなかで工夫し、待ち時間の短縮や静かな環境の提供など一層のサービスを提供できるよう努力してまいりますので、よろしくお願いいたします。



▲平成20年2月に配置が一新された外来ホール

なお、歯科研究棟の工事により、外来診療棟から歯科診療センターへの動線が遠回りになるなど、ご不便をお掛けしております。ご協力のほどよろしく申し上げます。(工事は平成21年3月19日までの予定。)

医事課長 成田 博昭

## 編 \* 集 \* 後 \* 記

本年10月に当センターへ配置換になりました福井と申します。病院での勤務経験は僅かに1年半ほどしかなく、これまでは大学の庶務や学務関係の部署で長く勤務しておりました。医療機関相互の連携を充実させ、皆様のお役に立てるよう、頑張ります。よろしくお願いいたします。

発行 平成20年11月

### 北海道大学病院 地域医療連携福祉センター

〒060-8648 札幌市北区北14条西5丁目  
TEL : 011-706-6037・7040(直通)  
FAX : 011-706-7963(直通)

<http://www.huhp.hokudai.ac.jp>



## スターバックスコーヒー 北大病院店OPEN

本年7月からスターバックスコーヒー北大病院店が新たに営業を開始いたしました。

これは、入院中の患者さんにも、院外で過ごす際と同様に本格的なコーヒーブレイクを楽しんでいただき、入院により発生するフラストレーションを解消した上で、治療に専念していただくことを目的として、始めたサービスです。

また、通院患者さんやお見舞いで来院されたみなさんにも、くつろぎのひとときを過ごす場所としてご利用いただいております。

これからも、多くの皆様にご利用いただき、楽しんでいただけることを願っております。

